

Kanjiru (Art) 展覧会

3人の磁器作家によるグループ展覧会



BIOME
KOBE, JAPAN

アートギャラリーのようでギャラリーではない —
“A gallery, but not a gallery” をコンセプトにした、神戸元町山手の「BIOME (バイオーム)」(以下「BIOME」)
による Kanjiru (Art) 展覧会のご案内となります。

「春のしろ」

森岡 希世子・畑 絢子・小林 千恵 磁器3人展

会 期： 2021年3月27日(土)～4月4日(日)
時 間： 13:00～18:00(最終日は16:00閉廊)
休 廊： 3月31日(水)
在 廊： 在廊の予定についてはSNSでご確認ください。
作 品： 約150点 白磁器、磁器(テーブルウェア、茶器、オブジェ等)

磁器は、長石や珪石などの陶石を砕いたものから組成されます。
高温で焼きしめたときに出る、金属音を思わせる響き。そこから透光感のある、繊細で、
気高い雰囲気を漂わせる作品が生まれます。

手にとるのを躊躇してしまいがちな薄手の磁器は、しっかりと形成されており、ものによっては
電子レンジや食洗機で使えます。

今回の展覧会は“白”がコンセプト。白磁器をメインテーマとし、3人の磁器アーティストによる
「春のしろ」をお届けします。ぜひご期待ください。

みどころ

「春のしろ」をタイトルとし、磁器3人展に作品を寄せる森岡希世子氏、畑絢子氏、小林千恵氏。
皆女性。皆世代が同じ。偶然が重なりました。
作陶拠点の違い、また展開するアイテムは異なりますが、白磁器に魅せられ、そして魅せてくれる
アーティストたちです。
春を迎える頃でも、世界的に抱える不安がなくなることはないでしょう。
誰もが想像していなかった状況のなかでも、人は考え、工夫し、努力を怠らず、積み重ねていく。
ある人はこれまでの成功や体験をゼロに戻すかのように、新たなスタートを切ったり、またある人は
今ある知識や能力、スキルをブラッシュアップしたり。
新しいことを加味し、しなやかに、変化や変容に対応できるのが人です。
真っ白な磁器には、そのような人の姿や想いが投影されているように思えます。

薄く、凜とした磁器から指を通して伝わる温もり。
目を魅了する艶のあるフォルム。
肌に触れた時に感じる硬さや冷たさ。思わず背筋が伸びます。

春という季節を、“白”という色で、皆さまに楽しんでいただきたいと思います。
健やかで、潔い3人の磁器展に、どうぞご期待ください。

別紙

2021年3月吉日

Kanjiru (Art) 展覧会

3人の磁器作家によるグループ展覧会



BIOME
KOBÉ, JAPAN

「春のしろ」

森岡 希世子・畑 絢子・小林 千恵 磁器 3 人展

2021年3月27日(土)～4月4日(日) 13:00～18:00 (最終日は16:00閉廊)
3月31日(水) 休廊日

アーティストのご紹介

森岡 希世子 (Kiyoko Morioka)

- 1974年 石川県金沢市生まれ
- 1994年 Denmark 国民美術学校留学
- 2016年 金沢美術工芸大学博士(芸術)学位取得
- 2018年 神戸芸術工科大学准教授伝統工芸士九谷焼成形部門
- 2020年 個展日本橋高島屋(東京)
- 2021年 「翔ぶ鳥」銀座一穂堂(東京)



畑 絢子 (Junko Hata)

- 1976年 京都市生まれ
- 1999年 金沢美術工芸大学産業デザイン学科工芸デザイン専攻卒業
- 2001年 金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科修了
- 2008年 個展 やきもの新感覚シリーズ INAX ライブミュージアム(常滑)
- 2017年 「創造する工芸 - その多様性と可能性 -」
第6回国際工芸美術作家協会展 はつかいち美術ギャラリー(広島)
- 2020年 二人展 ギャラリーヘプタゴン(京都)



小林 千恵 (Chie Kobayashi)

- 1974年 神奈川県生まれ
- 1996年 武蔵野美術大学短期大学部専攻科卒業
- 2011年 第9回国際陶磁器展美濃・国際陶磁器コンペティション/岐阜県
- 2015年 第59回ファエンツァ国際陶磁器展/ファエンツァ、イタリア
- 2016年 台湾国際陶芸ビエンナーレ/新北市立鶯歌博物館(台湾)
うつわ謙心(東京)、罐子茶書館(台湾)、
LEAFMANIA(東京)、IZUMO(神奈川)で個展を開催



本件に関するお問い合わせ



BIOME
(バイオーム)

〒650-0011 兵庫県神戸市中央区下山手通 5-7-15 グローリー山手ビル 101
tel : 090-3945-2040 email : artroom@biome-kobe.com